

「授業年間計画表」（シラバス）

令和5年度版

教科・科目		教科	科 目	単位数	履修学年
		家庭	家庭総合	2 単位	1 年 全 コース
目 標		生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。			
使用教材		教科書：大修館書店 Creative Living 「家庭総合」で生活をつくろう			
評価の 観点・ 評価規準	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会の関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住。消費や環境などについて理解しているとともに。それらに係る技能を身につけている。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭・地域の生活を創造し、実践しようとしている。	
評価方法		定期考査・実技テスト・課題（レポート・作品）の提出			
学期	学習内容		学習のねらい	学習活動	
1	第2章 青年期の課題と自立		・生涯を見通して人の一生について考え、それぞれのライフステージでの特徴や課題を理解する。	・自立に向け、今の自分に何ができるかを考え、将来必要なことを実践できるよう計画する。 ・ワークシートを用い、将来の生活のシミュレーションを行い、生活設計を立てる。	
	1節 子どもからおとなへ				
	2節 自立の達成をめざそう				
	第1章 生活のマネジメント				
2	1節 生涯、発達し続ける		・自己実現をめざし、自分らしいライフプランを考える。 ・生活の営みに必要な生活時間などの生活資源について理解し、情報の収集・整理が適切にできる。 ・被服製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身につける。	・生地扱い方や縫製技術を学び、エプロンを制作する。 ・ミシンの正しい使い方を知る。 ・被服による事故や健康被害を知り、健康で快適な着装を理解する。 ・繊維の種類とその性能を知り、衣服の選択に活かす。 ・取り扱い絵表示の意味を理解する。 ・界面活性剤の働きについて実験を通して学習する。 ・1人暮らしの1ヶ月の生活費から家計管理と経済的自立についてワークシートを用いて理解を深める。 ・契約、クレジット、ローンについて理解し、適切に自己管理するにはどうしたらよいか考える。	
	2節 意思決定を重ねてつくる人生				
	3節 どんな生き方をする？				
	第10章 衣生活のマネジメント				
	5節 オリジナルの被服を作る				
	第10章 衣生活のマネジメント				
	1節 人と被服の関わり				
	2節 快適な衣服の条件				
	3節 健康と安全を守る被服				
	4節 長持ちさせる手入れ				
	第8章 経済生活のマネジメント				
	1節 生活を営むためのお金				
2節 経済のしくみを知ろう					
3節 お金と上手につきあう術					
4節 18歳で変わる消費生活					
5節 進むキャッシュレス社会					
6節 消費者トラブルの今					
7節 消費者の自立を支援する					
3	第11章 住生活のマネジメント		・ライフステージに応じた住生活の特徴、安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身につける。 ・自然災害や人災などさまざまなケースに応じた防災対策について知り、自分の生活に活かせるようにする。 ・生活と環境の関わりや持続可能な消費について理解する。 ・持続可能な社会をめざして主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について考察し、ライフスタイルを工夫する。 ・ホームプロジェクトおよび学校家庭クラブの意義や方法について知る。	・インターネットで調べたりして住まいや住生活の特徴をグループ討議する。 ・部屋の平面図を作り、プレゼンする。 ・防災対策について知り、命を守るための具体的な手立てを考え、災害に備える。 ・日常生活における環境負荷実態を知り、エシカル消費について考える。 ・持続可能な社会を実現するために、今どのような取り組みが必要かを、討論する。 ・家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立て実践する。	
	1節 住まいを知ろう				
	2節 住む人の生活と住まい				
	3節 心地よく暮らすために				
	4節 安全に安心して暮らす				
	第7章 持続可能な社会をつくる				
	1節 地球が危ない				
	2節 ライフスタイル再考				
	3節 めざせ！持続可能な社会				
	ホームプロジェクト				
学習上の留意点	学ぶ姿勢・意欲 授業への参加・課題の提出状況を重視する。				

「授業年間計画表」（シラバス）

令和5年度版

教科・科目		教科	科 目		単位数	履修学年
		家庭	家庭総合		2 単位	2 年 全 コース
目 標		生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。				
使用教材		教科書：大修館書店 Creative Living 「家庭総合」で生活をつくろう				
評価の 観点・ 評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会の関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住。消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだし、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭・地域の生活を創造し、実践しようとしている。	
評価方法		定期考査・実技テスト・課題（レポート・作品）の提出				
学期	学習内容		学習のねらい		学習活動	
1	第4章 子どもの生活と子育てのマネジメント 1節 命の誕生 2節 こんにちは、赤ちゃん 3節 子どものいる暮らし 4節 子どもの仕事は「遊び」		・母体における様々な変化を知り、周囲が配慮すべきことを理解する。 ・乳幼児期の子どもの体と心の成長・発達を知り、それらは総合的なものであることを学ぶ。 ・子どもにとって生活習慣を身につけることの重要性を知り、家族の果たす役割を理解する。 ・遊びの意義を理解し、児童文化に関心を持つ。 ・食事の意味を知り、現在の食生活の現状を理解し、どのようにすればより健康的な生活が送れるのかを考える。 ・各栄養素の種類と働き、その重要性を理解する。多く含む食品とその利用法を考える。 ・食品の流通経路を知り、食品の鑑別や購入できる能力を養う。 ・食品を調理する目的を理解し、食品の性質を生かした調理法や調理技術を身につける。		・妊婦体験を通し、母体の健康管理や親としてどのように胎児を守ったらよいかを考える。 ・自分の幼少期や現在を振り返り、保育人形やDVDを利用しながら子どもへの理解を深める。 ・絵本や折り紙に触れながら、子どもとの接し方を学ぶ。安全性や発達段階を考え、身の周りのものでリサイクルのおもちゃを作る。 ・1日分の食事を分析し、問題点や改善方法についてまとめ、発表をする。 ・各栄養素の働きと特徴を学び、多く含む食品を使用した調理実習を行い食品の扱い方を学ぶ。 ・食品の写真を用いて食品選択のポイントや食品表示の見方を学ぶ。 ・手指の洗いや食品や器具の衛生的な取扱い方を知る。 ・調理実習を通して調理の基本を確認する。	
	第9章 食生活のマネジメント 1節 体と心を満たす食事 2節 栄養バランスのよい食事 3節 五大栄養素を摂る 4節 食品のプロフィールをしる 5節 持続可能な食生活 6節 みんなでおいしい食事を 7節 調理のワザを身につける調理実習					
2	第5章 高齢期の生活のマネジメント 1節 人生100年時代の高齢期 2節 年をとると変わること 3節 高齢期の生活を支える		・人生は生涯発達し続けること、高齢期だからこを活かされる能力があることや高齢者に対する共感の大切さを理解する。 ・高齢者の心身の特徴を知り、高齢期の生活を充実させるための個人的・社会的方策を考える。 ・高齢者福祉の考え方について理解する。高齢者の自立を支援するための社会保障、社会福祉制度について知る。 ・生活リスクについて理解し、人生におけるリスク管理の必要性を理解する。 ・自分の生活に問題が生じた時にどう解決するか具体的に考える。 ・共生社会の理念について理解する。		・エイジレスライフについて触れ、身近な高齢者がどのような生活をしているか話し合い、課題を考える。 ・シニア体験セットを使用し、高齢者の体の特徴について理解する。必要な介助について話し合う。 ・車椅子を使用し、介助の方法を学ぶ。	
	第6章 共生社会をつくる 1節 生活課題の乗り越え方 2節 みんなで支えあうしくみ 3節 とともに生き、社会をつくる				・自助・互助・共助・公助の具体的事例について知り、リスクに応じたセーフティネットワークを選択し対応できるようにする。 ・ユニバーサルデザインの理念に触れ、身近にある物を探す。すべての人に使いやすいものであることに気づく。	
3	第3章 家族・家庭生活のマネジメント 1節 家族って何だろう 2節 わかってくれて当然？ 3節 生活マネジメントの拠点 4節 法律からみる家族・家庭		・家族と世帯について理解し、現代の家族の特徴と社会の関わりについて理解する。 ・家族関係から生じる問題について知り、その解決法について考え、必要な力を身につける。 ・家庭が家族個人に果たしている機能と社会に果たしている機能を理解する。 ・家族・家庭に関する法律を理解し、家族について考える。		・サザエさん一家を例に家族と世帯について理解する。 ・ヤングケアラーやDVの具体例から親子関係や夫婦関係などのあり方について考える。 ・家事労働と職業労働について理解し、どのような生活を送りたいかを考えをまとめ、発表する。 ・扶養義務や現行民法について学び、社会制度としての家族について理解を深める。	
	最終章 生活をデザインする 生活の、主人公になろう		・自分らしいライフスタイルや価値観（家族観・生活観・職業観）などの形成に関心を持つ。 ・これまでの学習を踏まえ、長期的な生活設計を立案する際の課題を知り、実際に立案することができるようになる。		・自分が大切にしたい価値があるものについて考える。 ・将来なりたい自分になるためにいつ、何をどのように準備したらよいかライフプラン（生活設計）を立てる。）	
学習上の留意点		学ぶ姿勢・意欲 授業への参加・課題の提出状況を重視する。				

「授業年間計画表」（シラバス）

令和5年度版

教科・科目	教科	科 目		単位数	履修学年
	家庭	子どもの発達と保育		3 単位	3 年 全 コース
目 標	子どもの発達の特性や発達過程，保育などに関する知識と技術を習得させ，子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。				
使用教材	教科書：実教出版　子どもの発達と保育　新訂版				
評価の観点・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	子どもについての関心を持ち，意欲的に学習に取り組み，子どもの発達や子育てを支援していこうとする態度を身につけている。	子どもの発達をふまえ，現状について課題を見つけ，その解決を目指して思考を深め，工夫し創造する能力を身につけている。	保育に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	子どもの発達の特性，生活と保育に関する知識を身に付けている。	
評価方法	定期考査・課題（レポート・作品）の提出				
学期	学習内容		学習のねらい	学習活動	
1	1 章　子どもの発達の特性 1 節　発達と乳幼児期の意義 2 節　発達と保育環境 3 節　児童観と発達観 2 章　子どもの発達の過程 1 節　子どもの発育 2 節　子どもの精神発達 3 節　人間関係の発達		・子どもに関心を持ち，乳幼児期の意義について理解する。 ・子どもの発達と保育環境のかかわりについて知り，保育環境を整えることの重要性について思考を深める。 ・乳幼児の身体的特徴と生理的特徴についての知識を習得する。 ・子どもの精神発達の特徴を学び，乳幼児期が人格形成上大切な時期であることを理解する。	・自分が幼い頃の様子を振り返ることで、保育学習への関心を高める。 ・子どもの発達に大きな影響を与える保育の環境や子どもへの接し方，保育環境の整え方について考える。 ・乳幼児の身体の発育過程と生理的特徴を知る。 ・子どもの発達を促す玩具や折り紙などの製作を行う。	
2	3 章　子どもの生活 1 節　生活と養護 2 節　子どもの遊び 3 節　生活習慣の形成 4 節　健康管理と事故防止 4 章　子どもの保育 1 節　保育の意義と重要性 2 節　家庭保育と集団発育 3 節　保育の方法		・子どもの生活に関心を持ち，乳幼児はその発達に応じた養護が必要なことを理解する。 ・子どもは遊びを通して発達することを理解し，遊びの援助ができるようにする。 ・家庭保育と集団保育のそれぞれの特徴や役割を知り，子どもの発達に両方が必要であることを理解する。	・幼児の食事の特徴を知り，幼児の食事献立を考えて作る。 ・子どもの主体性を育てる遊びの援助について考える。 ・地域にある保育園へ行き、子どもとふれ合う中で、保育の重要性、子どもとの関わりを考える。 ・保育園児の活動にあった玩具を製作する。	
3	5 章　子どもの福祉 1 節　子どもの福祉 2 節　子育て支援		・子どもの福祉に関心を持ち，児童福祉の理念や法律と制度について理解する。 ・子育て支援の意義と現状を理解し，今後の課題と展望を考える。	・待機児童、虐待について考え、子育て支援のあり方について討議する。	
学習上の留意点	学ぶ姿勢・意欲・授業への参加・課題提出状況を重視する。				